鹿児島市立桜丘中学校
令和3年10月20日

第7号

馬肥ゆる秋

校長　上久保大介

近年、温暖化が進み今年も暑い日が続きましたが、今週に入り、ようやく秋らしい気候になってきました。

「天高く馬肥ゆる秋」…“秋は空気も澄んでいて、空も高く感じられる。食欲も増して馬もよく肥える。”というのが一般的な意味ですが、本来は今とは違い人々の**生活を脅かす心境**を表す言葉だったようです。その昔、中国の**漢の時代**には、秋になると北の方から**匈奴（きょうど）**という騎馬民族が夏の間に**太らせた馬に乗って、収穫物を求めて攻めてきていた**そうです。どうやら「秋になった。匈奴が攻めてくるぞ。」という**警戒する言葉**だったようです。食料の少ない冬に備えての、生きるためのことだったのかもしれませんが、お互いの存続のためには避けられない戦いがあったのでしょうね。

さて、時は流れ、このような戦いはなくなり、今では**「馬肥ゆる秋」**は、**さわやかな秋をイメージする言葉**となりました。しかし昨今の暑さは度を超しており、つい先日まで、長い夏が続いていました。そのような中でも、生徒たちは**学年体育大会の練習**に元気に励んでいましたし、**３年生のみの応援の練習**にも余念がありませんでした。中にはバテバテの生徒もいたと思いますが、これも**体力をつけるための大切な取組**です。今となっては匈奴は攻めてきませんが、肥ゆる馬のごとく**体力と気力**を身につけ、赤団、白団、それぞれ自分の団の勝利のために一人一人が全力を尽くして戦っていました。暑い中、指導している先生たちも体育科の先生を中心に、生徒たちに負けじと頑張っていました。

そのような厳しい暑さを乗り越えて、ようやく訪れた肌寒さは全国的なことだったらしく、北海道では初雪が降ったというニュースが流れていました。鹿児島はまだ涼しく、**「スポーツの秋」「芸術の秋」「読書の秋」**…と、いろいろ楽しめそうです。皆さんは「どんな秋」を過ごしますか。大学生へのアンケートでは**「食欲の秋」**が最も多かったそうです。食べ過ぎて「〇〇肥ゆる秋」にならないようにしたいと思います。